



元気っ子

N o 337 ながさわ保育園

園 長 中 瀬 弦 偉

毎年恒例になりますが、「元気っ子」9月号は夏の甲子園の振り返りになります。第107回全国高校野球選手権大会は沖縄尚学高校の優勝で幕を下ろしました。今年の選手権大会は甲子園で12試合、滋賀、奈良、三重など地方大会で5～6試合の観戦でした。実際に観戦した試合を中心に振り返ってきたいと思います。

まず地方大会で印象に残ったのは奈良大会「智辯学園 VS 奈良」です。奈良高校は秋季大会でも好成績を残し、近畿大会にも出場した公立進学校です。どんな内容になるかと「さとやくスタジアム」に足を運びましたが、さすがは智辯学園です。終わってみれば18安打16得点の5回コールドゲームで終わりました。昨夏甲子園で4番を任されていた中道くんも3打数3安打の大暴れと智辯学園の強さを垣間見る試合でした。

また三重大会では準決勝で「津田学園 VS 菰野」が対戦しました。津田学園はプロ注目の桑山くん、菰野は昨夏も甲子園で1勝をあげている栄田くんと好投手の投げ合いで注目されていました。結果は桑山くんが見事投げ勝ち、そのまま決勝も勝ち甲子園への切符を手に入れました。

ここまでが地方大会で、ここから甲子園です。大会第11日目は第一試合から第三試合を中央特別席中段で観戦、第四試合の「関東第一 VS 創成館」は、とあるご縁がありまして、一塁側アルプス席にて関東第一応援団席からの観戦となりました。関東第一のエース坂本くんの好投もあり勝ち試合を勝ちチームのアルプス席で応援するという貴重な経験をさせて頂きました。相手の創成館エースの森下翔太くんは阪神タイガース森下翔太選手と同姓同名ということもあり、打席に入った時の甲子園で聴く「森下翔太応援歌」はとても印象に残りました。

大会第12日目です。第一試合の「仙台育英 VS 沖縄尚学」は個人的に今大会のベストゲームだったかと思います。仙台育英吉川くんと沖縄尚学2年生末吉くん、両エースの投げ合いで、意地と意地のぶつかり合いでした。結果は沖縄尚学が勝ち切りましたが、ラストバッターになった吉川くんが一塁ベース上から起き上がれず、塁審に抱きかかえられながらの整列だったことは、この夏にかける想いの強さがにじみ出ていたかと思います。（後日、新聞にもこの時の想いの記事が掲載されていました）また仙台育英の須江監督は勝った沖縄尚学ナイン一人一人に「おめでとう！優勝しろよ！」とお声掛けされながら拍手で見送る姿もとても印象的でした。

さて、大会第13日目です。第一試合は「京都国際 VS 山梨学院」です。この試合は外野レフトスタンド最上段、浜風を受けながらの観戦です。結果は山梨学院の勝利に終わりましたが、試合終盤、京都国際アルプスに次の試合の高校がアルプス席空きスペースに入ってくるのですが、その学校が奇しくも昨夏の決勝を争った「関東第一」でした。そして京都国際のチャンステーマ「バッファエール」を一緒になって手拍子をしながら応援している姿はとても感動的で、「京都国際こんなところで負けるなよ！俺たちともう一回やろうぜ！」とエールを送っているようでした。そして多くの方が手に汗を握りながらご覧になったであろう、第三試合「県岐阜商 VS 横浜」です。この試合は延長タイブレークの末、県岐阜商が勝利をおさめたのですが、多くの高校野球ファンは「負けてなお横浜高校の強さが際立った」と感じたかと思います。昨夏早稲田実が大社戦で見せた「内野5人シフト」を2回、タイブレーク対策の内野シフトなど、どれだけ守備のバリエーションを持っているのか、底知れない強さを感じさせました。

今大会は2年生の活躍が目立ちました。何人の選手が甲子園に戻ってくるのか今からとても楽しみです。他にも豊橋中央の高橋くん、県岐阜商の横山くん、山梨学院の菰田くん、日大三の田中くんなどなど、触れなくてはいけない選手や裏話がたくさんありますが、書ききれません。お話が聞きたい方は是非、お声掛け下さい。